

MORI MORI PRESS

2014 5 vol.36

モリモリアレス

森田としかず(前埼玉県議会議員)

昭和49年9月熊谷市久保島生まれ
 広瀬保育園、熊谷市立玉井小中学校、埼玉県立熊谷高校、
 早稲田大学政経学部、カナダ・マギール大学留学、
 早稲田大学大学院博士課程を経て…
 28歳・県議選初挑戦(23票差で次点)
 30歳・訪問介護事業開始 32歳・県議選初当選
 33歳・介護施設上川原んち開設 36歳・県議選2期目当選
 38歳・衆議院議員選挙初挑戦(5,663票で次点)

〒360-0831 熊谷市久保島1003-2
 tel.048-530-6001 fax.048-530-6002

morimorita 森田俊和

モリモリアレスとは？

森田としかすのビジョンや政治に対する思い、地域活動の記録などを皆様にお伝えする広報紙です。
 ※バックナンバーはホームページからダウンロードしていただけます。



～アメリカ撤退後の備え～ 世界の国々とうつきあうべきか

■集団的自衛権≠戦争への道

安倍総理が解釈改憲により、集団的自衛権の行使を認める、という報道が連日なされています。マスコミの書き方を見ていると、いかにも戦争を起こす準備だというような言い方をしているところもありますが、早



日本の領海、海上保安庁HPより。

とちりをしてはいけません。

集団的自衛権は国連で認められている権利であり、日本だけがルールを逸脱して、暴走するというようなイメージとは程遠い状況です。むしろ、昨今の軍事的、外交的状况を考えるととも一國のみですべての問題に対処できるとことはますます難しくなっています。事が起ってから、なし崩し的に集団的自衛権を行使するのはなく、法令上の位置づけを行い、不測の事態に備えるというのが、取るべき形であると考えます。

また、忘れてはいけないのは、最終的な憲法解釈は、あくまで最高裁が行う、ということです。内閣法制局は内閣における解釈を決める場所であり、それが憲法の最終的な解釈になるわけではありません。法の解釈も、刻一刻と歴史的、政治的状況が変わる中で、当然変化していきます。内閣の解釈は違う、と最高裁が判断すれば、憲法改正を含めて、別の動きをすることになります。

アメリカが日本の防衛から手を引いたとき、日本は自国の防衛をどのように行うか…。万が一の時、国民の生命財産をどのように守るかということ、**「想定外」**がないよ

うに、防衛政策を組み立てていく必要があります。平和を希求するのは当然です。しかし、国境警備やPKOの作戦行動などが紛争に発展するというケースがないわけではありません。いつまでもアメリカの傘があるという認識を改めるべき時なのかもしれません。

■バランスのとれた見方を

もう少し具体的に考えてみましょう。北方領土、竹島、尖閣…と日本には国境をめぐる課題がありますが、私たちは外交については素人であり、いかにしてこの課題を解決していくべきか、ということについては、よくわからない、という方も多いと思います。

竹島は韓国が実効支配してしまっており、尖閣諸島周辺には連日中国の船舶が押し寄せてきています。北方領土は戦後ずっとソ連、ロシアの実効支配を受けており、ク

👁️ 目で見る地域に根ざす活動記録



トヨタ本社訪問
 [4月16日]愛知県豊田市にあるトヨタ自動車の本社に行ってきました。豊田章男社長に講演の依頼をするためですが、結果的には叶いませんでした。(TJ)



サンルート熊谷駅前オープン
 [4月23日]熊谷駅前にサンルートがオープンしました。宿泊需要があるのに、ホテルがないという要望にこたえて、とのことです。早くドームも復旧しますように!!

活動報告

